

議員と一緒に考える会 報告

2025年1月2月開催 担当：木村諭史

1. 経緯

議員と一緒に考える会を前任期から二年ぶりに開催しました。前回は総務常任委員会主催として、『議員定数の議論』と『地区ごとの振興』を大まかなテーマに開催してきました。

『テーマが絞られた方が話しやすい』という当時の反省と、現議員らの『参加人数が読めない』といった懸念を踏まえ、議員視察の内容を土台として、事前に声かけした上で実施しました。

2. 開催概要

当初は新島・式根島で二回ずつ、視察報告の前後編および島毎にアレンジした資料での実施を予定しておりました。とくに小笠原議会の一行を迎えて予定していた式根島開催が連絡船欠航のため中止となってしまいましたが、議会小会議室にて一村二島の意見交換を行うことができました。

3. 新島会場 1回目：1/17

26名参加。出席議員：吉見 前田勝利 大沼 小久保 木村

26名と多くの参加者を迎えることができた。議員らはスライドの事前確認・事前の意見交換をもとに行ったものの、初めての開催として緊張があった。

アイスブレイクをかねて発表の合間に掛け合いのような質疑応答や対比シートの記入を行ってみたが、会場の雰囲気的にまとめて話しを聞く流れの方が良いとの反応であった。最後の10分および閉会後の30分ほど地域課題について意見交換ができた。



4. 式根島会場 1回目：1/20

5名参加。出席議員：吉見 前田勝利 大沼 小久保 木村

初回の新島開催の反省をもって、議員の持ち時間や発表の受け渡しを明確に定め、予行練習をした上で実施しました。少人数ながらも、島事情に精通した方との積極的な意見交換ができた。

離島ブームが去った現在、跡継ぎとなる観光従事者が減っていることや、商店・宿泊事業者のみならず来島者自体も減っていく前提としている経済モデルになっていることに対して真剣に意見交換させていただきました。



5. 新島会場 2 回目：2/25 意見交換部分

26 名参加。出席議員：吉見小久保 木村
一回目の反省を受け、議員間で慣れたこともあり、
役割分担のうえ、3 テーブルに分かれた意見交換を
実施した。最後に QR コードによるアンケートを依頼した。



テーブル A：(担当：小久保議員) では

【全体として】具体的なアイデアについての多くの意見交換ができた。

- アプリを含めた新島検定、双方向的なしくみとして、こどもたちにつくらせたい・新島クイズ大会などのアイデアもあがった。
- スマホを前提にした動画配信について、詳細な提案があった。
- ニッチな顧客も呼び込めるように、四季ごとの自然音、西風を体感（風で鳴る楽器、乱れた髪型コンテスト等、新島コレクションとしてまとめてみる）

テーブル B：(担当：木村議員) では、

【全体として】議員と一緒に考える会そのものの手応えとして、このような話す機会・活動を重要視しつつ、それを具体化する意識を含めた上で、問いが多くなされた。

- コーガ石関連の発表を受けて、一貫教育の柱で郷土愛を育むテーマ（コーガ石などを）根幹にするのもよいと思う。各地のマップの事例より、自分たちで作成したマップの重要性から、行きたいと思わせるマップについての意見交換も行った。
- 新島検定の中でも砂の実物から砂浜あてクイズにするなどの意見も出た。
- こどもを交えた会議においても、シビアな話しを伝えることの重要性と、自ら考えて行くこども会議のような重要性の両方が話された。

テーブル C：(担当：吉見議員) では

【全体として】議員からの率直な問いを始めに、方向性を含めた意見交換ができた。

- 方向性・政策がバラバラで、集約できていないことへの言及があった。
- 今の課題マップをどこかに貼りだしても良さそう。
- 宝島事業と景観保護の連携
- 飲食店などの参入補助（キッチン・衛生設備クリアの）などの提案があった。

6. アンケート結果

12名の方からご回答を頂きましたので、まとめます。

●大まかな感想としては、

・楽しかった（2件）、有意義、良い、画期的な話しが聞けたという文言が一番多くいただきました。『初めて聞く情報もあったので、収穫がありました！こういう機会があるといいなと思いました。テーブルで出た話を聞きたいです、そして今回の結果がなにかしらの動きにつながってほしいです』など、前向きな声が一番多かった。

●進行については、

『少人数に分けての意見交換はとても有意義でした』といった意見を含め、・意見交換の時間を多くしてほしい（同様2件）

・事前に意見を書く時間が欲しい、
・『事前アンケートにより質問等集めてお答えいただく時間があれば、参加者もテーマについて考える時間ができ、その後のグループディスカッションも発言しやすくなる』といった提案も寄せられました。

また、・事前に資料が欲しい、オンラインの資料が欲しいといった意見も寄せられました。

●アイデアの方向性やその具体化については、

・発想を出し合い、現実的に絞っていくことは大事、
・方向性も示してほしい
・意識ある方々でプロジェクトチームを作って具体化していきたい、
といった回答をいただいた。

●具体的な段取りに関しては、

・議員全員で資料や島の現状を確認してから行ったほうが良いのでは？
・議員同志の方向性を固めてから開いた方がいいのでは？
といった提言も頂けた。

7. 全体を振り返って

議員らとしても、実施のイメージも手探りの中、試行錯誤しながら実施してきました。初回の新島での報告メインの意見交換から、式根島での少人数ならでの対話型意見交換が実感でき、3回目でテーブルに分けた意見交換はふせんでメモをとりつつ実施しました。最後はアンケートの実施（3回目）なども実施しました。また、実施にあたって、オンラインでの資料掲載なども並行して取り組ませていただきました。

議会は議員の集まりであるので、協議・合意なくして進まないところがあります。また、このような意見交換は学校の間でも増えてきているものの、近年のこのような学び経た議員を迎えるにはもう少し時間がかかると思われます。

誰か一人の経験や頭の中でのイメージだけでは、議会として動けるものではなく、少しずつ議員を交えながら、勇気をもって意見交換する姿勢・手法を身につけていかなければならないと思っています。

見苦しい点もあったかと思いますが、声を聴く、一緒に考える、（企画や振り返りにあっても議員自身が悩む）ことも含めて、一連の取組をさせていただきました。また改善をしつつ対話の活動を継続していきたいと思っています。（文責：木村諭史）